

文京区立礪川小学校道徳地区公開講座 指導案

第1学年

- 1 主題名 あいてに しんせつに (親切、思いやり)
- 2 資料名 「はしの うえの おおかみ」
- 3 ねらい うさぎやきつねなどに意地悪をしていたおおかみが、くまに親切にされて心を入れ替える姿を通して、相手に親切にすることのよさについて考えさせ、相手のことを思いやり、優しく接しようとする実践意欲と態度を育てる。

4 授業の流れ

- ① 親切にしてもらった経験を伝え合う。
- ② 「はしのうえのおおかみ」の範読を聞き、話し合う。
 - ・ おおかみは、くまの後ろ姿を見送りながら、どんなことを考えていたのかな。
 - ・ 91ページと94ページの「えへん、へん。」を比べて、おおかみの気持ちはどのように変わったのかな。
- ③ 学習の振り返りをする。
- ④ 教師の説話を聞く。

～授業者の思い～

小学校に入学して早8カ月。4月に交わす言葉は、「はじめまして」でしたね。仲良くなってきた今、つい意地悪をしてしまう気持ちも、人に親切にしたいという気持ちも、どちらも心当たりがあるかもしれません。今回の学習を通して、これからの自分は、相手にどんな思いをもって接していきたいかを考えるきっかけになることを願っています。

第2学年1組

- 1 主題名 ぴかぴかがかり (勤労・公共の精神)
- 2 資料名 「ぴかぴかがかり」
- 3 ねらい みんなのために働くことにやりがいを感じ、みんなの役に立とうとする心情を育てる。

4 授業の流れ

- ① みんなのためにしていることを発表し合う。
- ② 資料「ぴかぴかがかり」を読んで話し合う。
 - ・ 黒ずんだ流しをみたとき、「わたし」はどんなことを考えていたか話し合う。
 - ・ 1年生たちが話しているのを聞いたとき、「わたしたち」はどんな話をしたと思うか話し合う。
- ③ 自己の生活を振り返る。
- ④ 教師の説話を聞く。

～授業者の思い～

冬休みを目前に控え、家庭や地域で子どもたちが関わることのできる仕事も増えてくることと思います。自ら行った仕事がみんなの役に立ち、それがみんなの快適さや喜びにつながることや、仕事をすることのやりがい、うれしい気持ちを十分に感じることができるようになりたいです。

第2学年2組

- 1 主題名 自分をすきになる（個性の伸長）
- 2 資料名 「どうしてうまくいかないのかな」
- 3 ねらい うまくいかずに悩むわたしが自分のよさに気付く姿を通して、自分を好きになるとどんな気持ちになるかについて考えさせ、自分のよさに気づき、それを伸ばしていこうとする心情を育てる。
- 4 授業の流れ
 - ① うまくいかなかった経験について共有し合う。
 - ② うまくいかなかったときにどんな気持ちになるかを考える。
 - ③ 主人公が前よりも自分を好きになれた理由を考える。
 - ④ 1年生の時と比べて自分のことが前より好きになったところはあるかを考える。
 - ⑤ 今の自分のよいところや好きなのところを考える。

～授業者の思い～

現代の日本の子どもたちは自己肯定感が低いと言われていきます。実際に、学校で子どもたちの様子を見てみると時折、自信がない様子が見られます。子どもたちが自分自身のことを認め、信じることで自信は生まれると思います。まずは自分のよいところや個性を知り、徐々に認めていけるように支援していきます。

第3学年1組

- 1 主題名 昔からつたわる物
- 2 教材名 「ふろしき」
- 3 ねらい ふろしきを知り、日本に古くから伝わる文化に興味をもつ「わたし」のを通して、日本に昔から伝わるものについて考えさせ、それらに関心をもち、親しもうとする心情を育てる。
- 4 授業の流れ
 - ① ふろしきを使った経験を出し合う。
 - ② 資料「ふろしき」を読んで話し合う。
 - ・「わたし」の「すてきな発見」について考える。
 - ・実際にふろしきでいろいろな物を包んでみる。
 - ・日本に昔から伝わっているものを出し合う。
 - ③ 今日の学習の感想を書く。

～授業者の思い～

昔から伝わる物のよさを子どもたちに考えさせるため、実際に風呂敷を使って様々な使い方を体験させます。風呂敷を通して、私たちの身の回りには、昔から伝わる様々なよい物があることを考えさせたいと思います。

第3学年2組

- 1 主題名 きまりは何のため
- 2 教材名 「きまりのない国」
- 3 ねらい きまりの意義を理解し、きまりを守って行動しようとする心情を育てる。
- 4 授業の流れ

- ① 世の中にきまりがなかったら、どうなるか話し合う。
- ② 「きまりのない国」を読み、話し合う。
 - ・けんたさんは、なぜ「きまりのない国って、ないのかな」と言ったのだろう。
 - ・けんたさんは、なぜ元の国にもどりたくなったのでしょうか。
 - ・きまりは何のためにあるのでしょうか。
- ③ 今回の学習を振り返る。

～授業者の思い～

学校生活の中でもたくさんのきまりがあります。きまりがなくなったらどうなるかを想像して、きまりは安全で安心な生活を送るために大切だということに気付かせたいです。

第4学年1組

- 1 主題名 気持ちよく働く（勤労、公共の精神）
- 2 資料名 「琵琶湖のごみ拾い」
- 3 ねらい 琵琶湖のごみ拾いをしている方の話を聞き、自分もごみ拾いをするようになった主人公の姿を通して、気持ちよく働くために大切なことについて考えさせ、みんなと働くことに喜びを感じ、進んで働こうとする実践意欲を育てる。
- 4 授業の流れ

- ① 自分自身の働き（係や当番）について振り返る。
- ② 「琵琶湖のごみ拾い」の範読を聞き、話し合う。
 - ・おじさんの話を聞いて、どうしてびっくりしたのか。
 - ・ごみを拾って、なぜ気持ちがよくなったのか。
- ③ 仕事をしていい気持ちになった経験について話し合う。
- ④ 教師の説話を聞く。

～授業者の思い～

仕事をすることは面倒くさい、遊びを優先したい、そんな気持ちが子どもたちの中にもあると思います。そんな中でも、係や当番の仕事することで自分や周りがどんな気持ちになるのかを考えさせたいと思います。そして、5年生になったとき委員会での仕事にも進んで取り組もうとする意欲をもたせたいです。

第4学年2組

- 1 主題名 みんなが気持ちよく (規則の尊重)
- 2 資料名 「雨のバスでいりゅう所で」
- 3 ねらい 並んでいた人たちを抜かしてバスに乗ろうとした主人公が自分のしたことを振り返る姿を通して、みんなが気持ちよく過ごすために大切なことについて考えさせ、約束や社会の決まりの意義を理解し、それらを守ろうとする実践意欲を育てる。
- 4 授業の流れ
 - ① 順番を守って並ぶ経験について振り返る。
 - ② 「雨のバスでいりゅう所で」の範読を聴き、話し合う。
 - ・よし子の行動をどう思うか。
 - ・お母さんの横顔を見て、どう思ったか。
 - ③ きまりはなぜ大切なのかについて話し合う。
 - ④ 教師の説話を聴く。

～授業者の思い～

決まりは大切であるということは、子どもたちも理解していると思いますが、心の中では決まりについて様々な考えを持っていて、それに対する向き合い方も多様だと思います。よし子の行動をどう思うかについて問い、様々な視点からの話し合いを行って、なぜきまりは大切なのか考えさせたいと思っています。

第5学年

- 1 主題名 自分らしさを知る (A 個性の伸長)
- 2 教材名 「自分らしさ」を見つめよう
- 3 ねらい
「自分らしさ」を見つめることについて考え、自分の長所や短所に目を向け、自分自身を伸ばしていこうとする実践意欲を育てる。
- 4 授業の流れ
 - ① 「自分らしさ」の捉え方を共有する。
 - ② 自己を見つめ、「自分らしさ」のまどを作成する。
 - ③ グループの友達から見た自分をまどに書いてもらう。
 - ④ 本時で気付いた長所や短所と、どのように向き合い、どのように生きていきたいか、考える。
 - ⑤ 教師の説話を聞く

～授業者の思い～

勉強にも遊びにも行事にも一生懸命取り組む子供たちは、得意不得意にかかわらず努力する姿勢を見せてくれます。そんな彼らも、長所や短所があり、自覚する自分と客観的に捉えられる自分の共通点や相違点に気付くことで、さらに最高学年へ向けたステップアップができると思います。立派な高学年へ成長するきっかけとなるよう願っています。

第6学年

- 1 主題名 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
- 2 教材名 「ようこそ、菅島へ！」
- 3 ねらい 受け継がれてきた郷土の伝統を大切にし、発展させようとする心情を育む。

4 授業の流れ

- ⑤ 資料「ようこそ、菅島へ！」を読んで話し合う。
 - ・主人公と自分を重ね合わせ、気持ちを予想する。
 - ・伝えたいことが溢れてきた理由を考える。
- ② 地域の自慢したいことについて発表し合う。
- ③ 地域のキャッチコピーを作る。
- ④ 教師の説話を聞く。

～授業者の思い～

「郷土を大切に」というテーマがあるこの読み物は、三重県にある菅島の子どもたちが観光ガイドをして島の魅力を伝えるという話です。自分たちが暮らす地域のキャッチコピーを作り、「どうしてそう考えたか」の理由を大切にし、子どもたち視点の地域の魅力を大切にしてほしいと思います。

4・5・6・7組（下学年）

- 1 主題名 「みんなとなかよくするために」（友情・信頼）
- 2 教材名 「みんなとなかよくするために」
- 3 ねらい 友達への言葉かけについて振り返り、温かい言葉で身近にいる人へ思いやりの心をもって接しようとする意欲を育てる。

4 授業の流れ

- ① 具体的な場面を見て、どのような言葉を書いたらよいかを確認する。
- ② 言われたらどんな気持ちになるかを考える。
- ③ 「ふわふわ言葉の木」をみんなで作る。
- ④ 振り返りをする。

～授業者の思い～

低学年の児童は、上級生から優しくしてもらった経験がある児童も多いです。言う人も言われた人も、嬉しくなる「言葉」に気付き、温かい言葉を使っていこうとする態度を育てたいです。「ふわふわ言葉」を考え、日常生活でも活用しようとする意欲を高め、温かい人間関係を築けるようにします。

4・5・6・7組（上学年）

- 1 主題名 「みんなとなかよくするために」（友情・信頼）
- 2 教材名 「みんなとなかよくするために」
- 3 ねらい 相手の気持ちを考えさせ、友達と互いに助け合ったり、協力したりして仲良くしようとする心情を育てる。

4 授業の流れ

- ① 友達がいてよかったと思った場面を確認する。
- ② 様々な場면을提示し、場面に応じた適切な言葉を考える。
- ③ 動画でその場면을再確認する。
- ④ 振り返りをする。

～授業者の思い～

友達と仲良くしたいと思っている児童は多いが、それを上手く言葉にして伝えることが苦手な児童が多いです。場面に応じた適切な言葉を考え、友達と仲良くしようという意識や言葉で伝えようとする態度を育成し、今後の学校生活で活用できるようにしたいです。